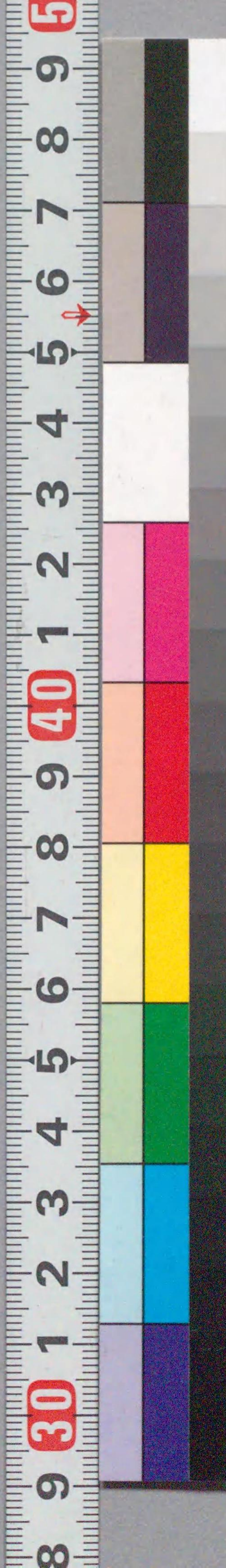


国立国会図書館

宿昔語筆操 : 2巻 207-297



ガラス使用



寛政五年印行



8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 60



丑正月元日

作者 山東京傳

板 葛屋重三郎

附 前生の貞節の三浦高雄が南禅寺前住の楓豆腐

正本伊達鏡

床本襪襦錦

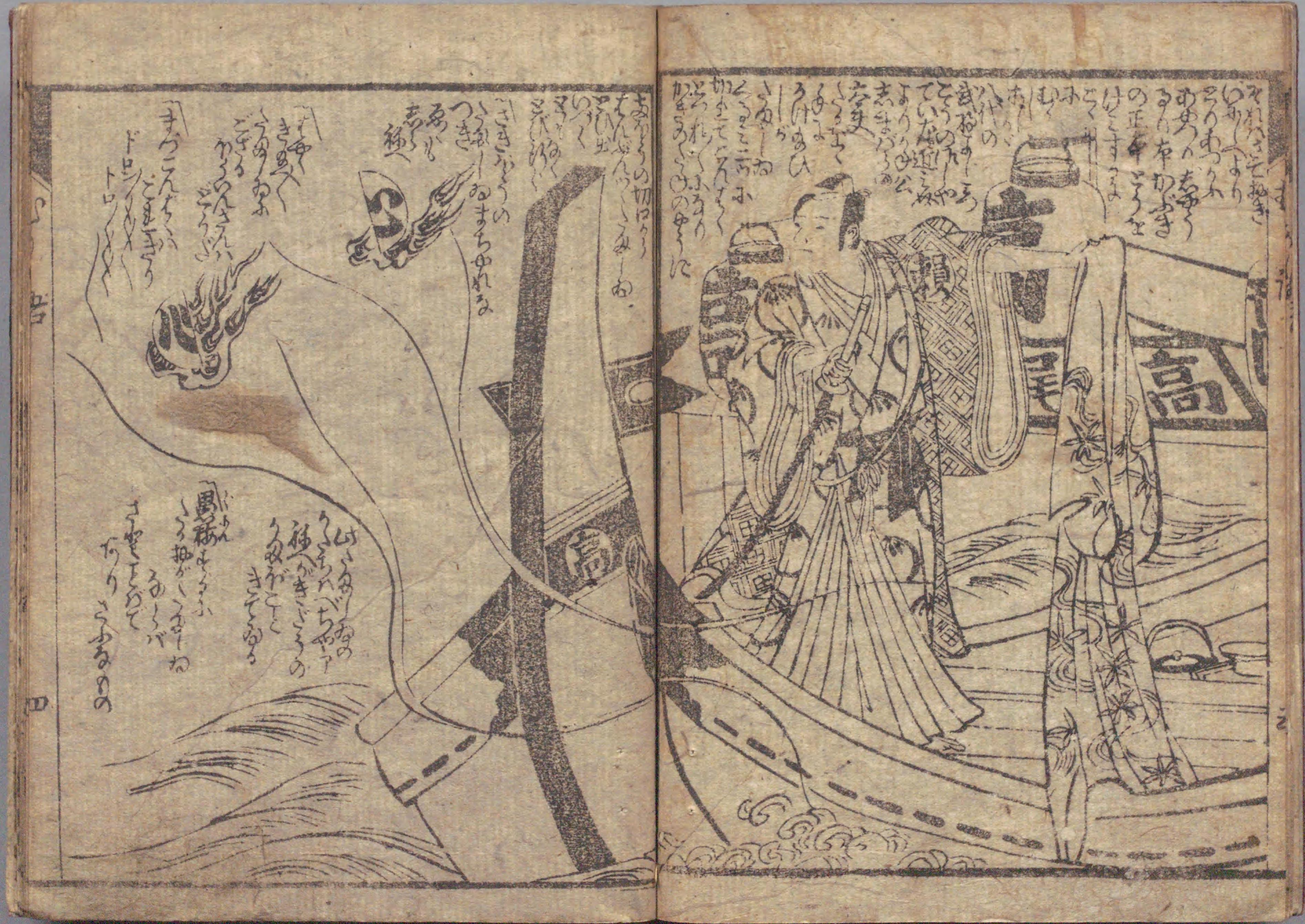
宿昔語筆操 全二部

并 現在の孝行の春藤兄弟が大安寺堤の葵下坂

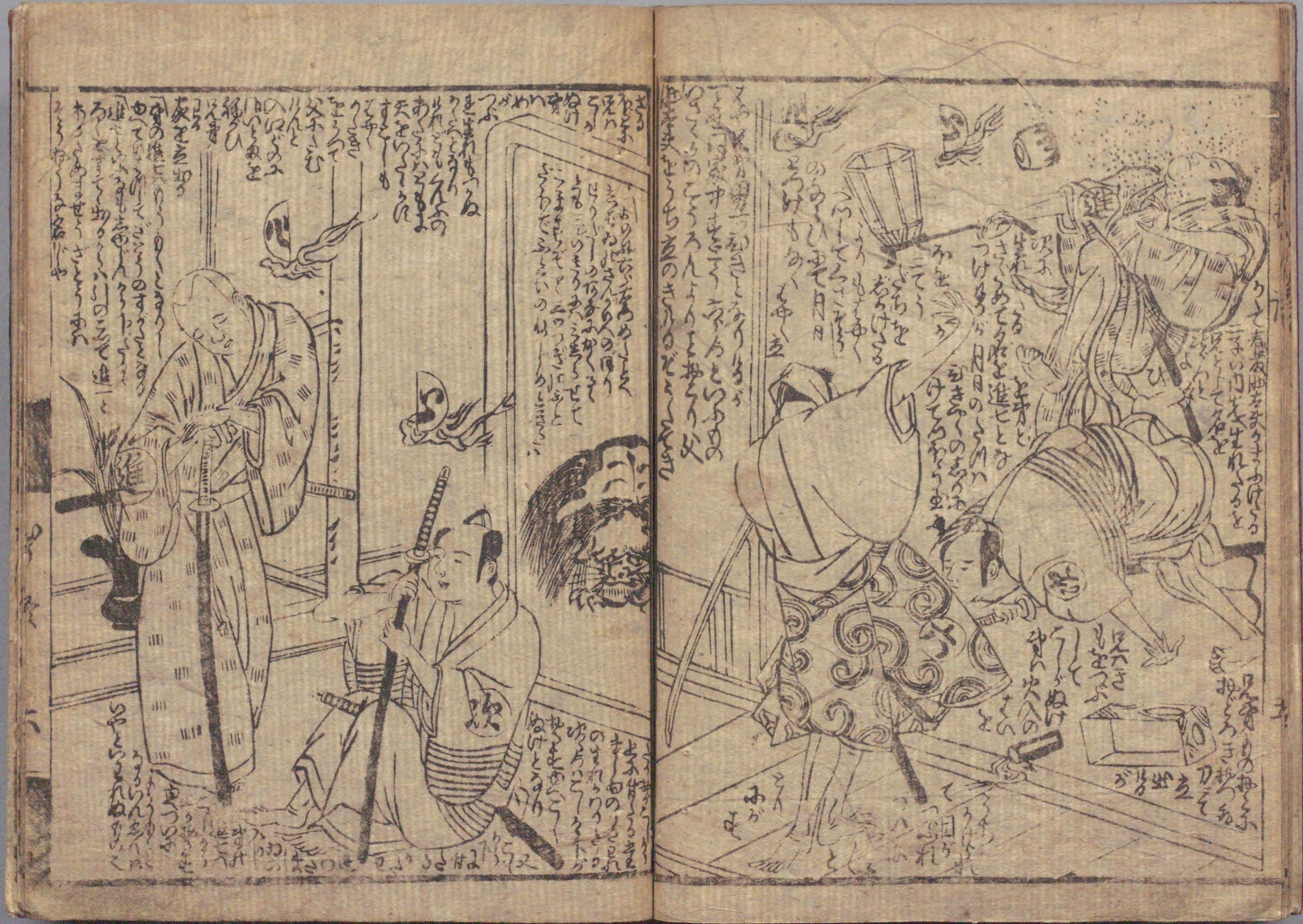
序 秋の山へさる雄の影が雲を穿てての目出づれのみきとん中ひさのわさ
吉野の橋本小舟りての作者が中かきもかこのころんおやうく入いこまの
序のむくまは見えはる今とあらしき兄弟のたの敵打虎の兄弟の極嘆こらうり
花の光れ菊のさるまをまきしは十二因縁全巻の二冊紙方てうと十四誠
大谷さるやうに九巻が歌に春の休遠それらひねり見も新をさる
後向かへさるまをまきしはる新よりくはるる出巻のりりりり











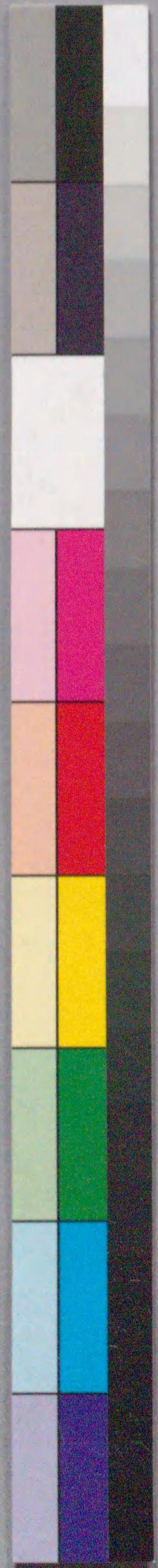






時王若尔家身是時仙
人今提游の達多尾





貧福西道中之記 上中下 出来

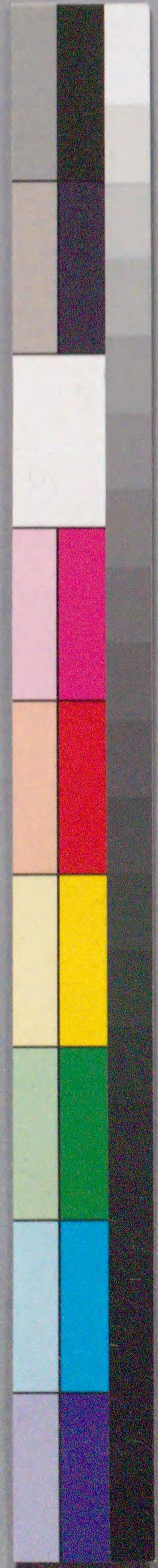
京傳

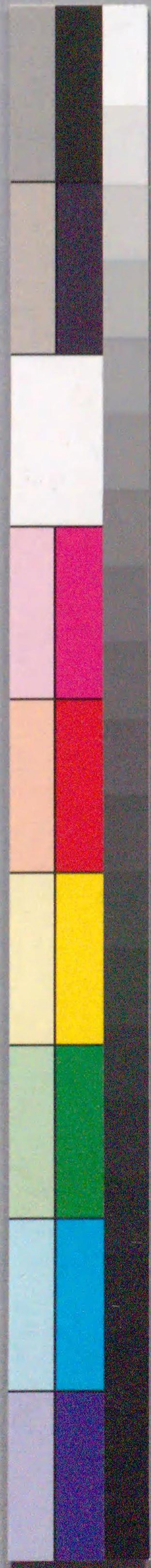
Handwritten Japanese text in vertical columns, including a large vertical title '水問屋' on the left side of the illustration.

水問屋



207
297





国立国会図書館 宿昔語筆操：2巻 207-297



ガラス使用

